

野菜の需給・価格動向レポート(平成28年3月22日版)

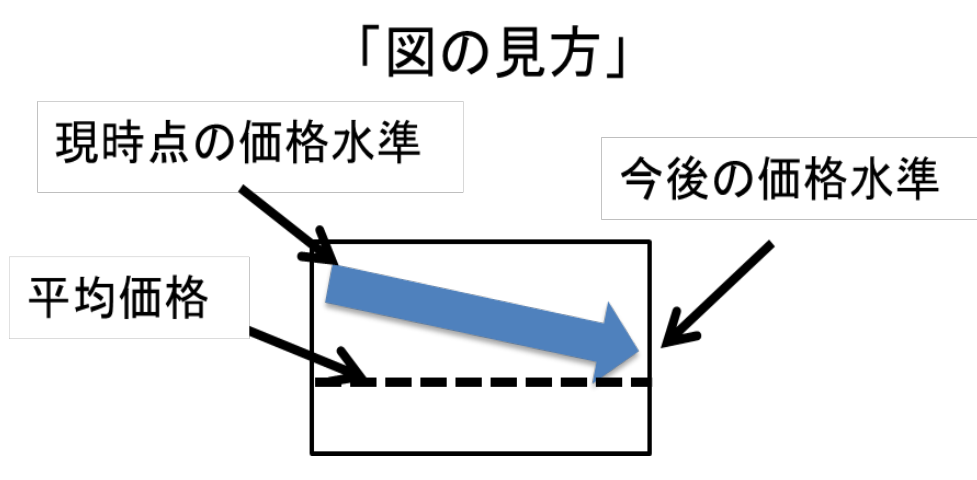
1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	2月の価格情報				3月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	上旬	平均価格			
		中旬	下旬						
キャベツ	96.86	64	61	96.86	80	・入荷量：17,724t ・主産地：愛知(66)、千葉(16)、神奈川(15)	平均価格 →	愛知産は、これまでの前進出荷の影響に伴い、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、これまでの前進出荷と後作の本格的な出荷の端境となっている関係で、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は後作の出荷が増量される見込みであることから、平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、春系の出荷が気温の上昇とともに増加してきており、特段の病害の発生はなく生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	92.10	61	57	92.10	74	・入荷量：4,582t ・主産地：愛知(58)、大阪(13)、兵庫(11)			
たまねぎ	76.15	80	81	76.15	80	・入荷量：11,206t ・主産地：北海道(63)、静岡(20)	→	北海道産は、貯蔵物を計画的に出荷しており、今後も引き続き平年よりやや多めと見込まれる。静岡産は、生育期の天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるもの、静岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年並みに推移する見込み。	
	76.15	74	77	76.15	73	・入荷量：4,067t ・主産地：北海道(55)、長崎(19)、兵庫(15)			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.99	230	246	252.99	263	・入荷量：4,352t ・主産地：千葉(47)、埼玉(25)、茨城(10)	→	千葉産は、秋冬ねぎが終盤を迎え、しばらくは大きな増減もなく安定した順調な出荷が見込まれることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、病害虫の被害が見られ、細物中心であることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、太りも良く生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるもの、千葉産及び埼玉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれることから、現在概ね平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
	473.04	540	563	473.04	522	・入荷量：239t ・主産地：徳島(29)、香川(16)、奈良(15)、三重(15)、高知(10)			
はくさい	64.18	48	74	64.18	74	・入荷量：8,827t ・主産地：茨城(58)、兵庫(19)、群馬(13)	→	茨城産は、これまでの前進出荷の影響に加え、気温高と降雨により品質の低下が見られることから、現在平年よりやや少なめの出荷である。後作の生育は順調であるが、出荷の増量は4月以降であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、即売物のお荷はほぼ終了し、冷蔵物は計画的な出荷で、終盤を迎えているが、引き続き平年並みの出荷の見込み。 兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	68.70	69	89	68.70	95	・入荷量：3,276t ・主産地：長崎(59)、兵庫(13)、愛知(11)、熊本(11)			
ほうれんそう	338.43	472	459	338.43	540	・入荷量：1,554t ・主産地：茨城(32)、群馬(23)、埼玉(16)、千葉(16)	→	茨城産は、これまでの前進出荷の影響で、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は気温の上昇とともに、生育が進むことから、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、作付面積が増加したことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。埼玉産は、1月及び2月の降雪などの天候不良により播種できなかった影響で、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は病害の発生が見られることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、茨城産及び群馬産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年に近づきつつあるものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	375.38	541	538	375.38	585	・入荷量：632t ・主産地：徳島(45)、福岡(29)、群馬(8)、茨城(7)			
レタス (結球)	233.85	260	261	189.66	287	・入荷量：8,057t ・主産地：茨城(45)、静岡(16)、香川(7)、栃木(6)、兵庫(6)	→	茨城産は、気温高に加え適度な降雨により、肥大が進み大玉傾向であることから、現在は平年よりやや多めの出荷であるが、今後はこれまでの前進出荷の影響で平年並みの出荷の見込み。静岡産は、定植時の天候不順で十分な植え付けが出来なかったほかからの出荷に加え、これまでの前進出荷の影響から、現在平年よりやや少なめの出荷である。今後は増量見込みで、平年並みの出荷に回復する見込み。香川産は、2月からの寒波の影響により小玉傾向に加え、前進出荷の影響などから、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は最近の降雨などの影響から、平年よりやや少なめの出荷の見込み。 静岡産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が減少すること及び香川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。	
	226.75	278	283	193.43	300	・入荷量：1,273t ・主産地：兵庫(40)、徳島(17)、茨城(16)、香川(11)、長崎(10)			
きゅうり	370.98	386	377	266.63	327	・入荷量：5,959t ・主産地：群馬(20)、宮崎(20)、千葉(18)、埼玉(16)、茨城(11)	→	群馬産は、12月下旬から1月上旬の曇天により、花落ちが多かった段からの出荷に加え、最近の冷え込みが激しく玉太りも鈍いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。宮崎産は、一部で病害の発生が見られるものの、全体的には生育は順調で若干前進傾向となっていること、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。愛知産は、これまでの前進出荷の影響と作の切り替え時期により、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は徐々に回復が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるもの、熊本産及び愛知産の出荷が平年よりやや少なめ若しくは平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年に近づきつつあるものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	350.33	370	361	254.91	320	・入荷量：1,264t ・主産地：宮崎(38)、高知(24)、徳島(18)、愛媛(8)			
トマト (大玉)	349.23	387	383	356.77	427	・入荷量：6,109t ・主産地：熊本(28)、栃木(22)、愛知(12)、千葉(5)、茨城(5)、埼玉(5)、群馬(5)	→	熊本産は、12月下旬から1月上旬の曇天により、花落ちが多かった段からの出荷に加え、最近の冷え込みが激しく玉太りも鈍いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、一部で病害の発生が見られるものの、全体的には生育は順調で若干前進傾向となっていること、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。愛知産は、これまでの前進出荷の影響と作の切り替え時期により、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は徐々に回復が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるもの、熊本産及び愛知産の出荷が平年よりやや少なめ若しくは平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年に近づきつつあるものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	326.61	362	364	337.87	405	・入荷量：1,097t ・主産地：熊本(72)、福岡(10)			
なす	389.03	437	427	347.77	399	・入荷量：2,786t ・主産地：高知(62)、福岡(17)	→	高知産は、12月の曇天の影響が少し残っており、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は生育が概ね順調で、日照時間の増加に伴い徐々に回復すると見込まれるもの、平年よりやや少なめの出荷の見込み。福岡産は、最近の天候に恵まれ生育は順調なことから、出荷は徐々に回復してきたものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 高知産及び福岡産の出荷が、平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	397.74	417	407	330.95	385	・入荷量：731t ・主産地：高知(37)、福岡(21)、熊本(21)、岡山(10)、大阪(6)			
ピーマン	578.80	794	696	578.80	647	・入荷量：2,008t ・主産地：茨城(35)、宮崎(30)、高知(19)、鹿児島(15)	→	茨城産は、最近の寒暖差により着果に影響し、不安定な出荷となっているもの、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、現在平年よりやや少なめの出荷であるが、最近の天候も安定し、生育は順調であることから徐々に回復が見られるもの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。高知産は、11月中旬から12月の天候不順の影響から、回復が見られるもの、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は特段の病害もなく、生育は順調で徐々に増量すると見込まれるもの、平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産、宮崎産及び高知産ともに現在の出荷状況のまま推移することが見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	565.30	739	646	565.30	618	・入荷量：386t ・主産地：宮崎(47)、高知(27)、鹿児島(9)			
だいこん	79.03	67	80	79.03	78	・入荷量：12,861t ・主産地：神奈川(60)、千葉(33)	→	神奈川産は、これまでの前進出荷の影響に加え、最近の降雨により掘り取り作業が遅れが生じたこともあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、トンネル物のお荷が主体となり、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 神奈川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
	80.47	57	72	80.47	71	・入荷量：3,076t ・主産地：鹿児島(32)、長崎(21)、群馬(21)、徳島(14)			
にんじん	111.16	83	83	111.16	96	・入荷量：7,094t ・主産地：千葉(55)、徳島(27)、埼玉(4)	→	千葉産は、現在は出荷の終盤を迎え、平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は減少傾向となることから、平年並みの出荷となる見込み。徳島産は、本格的な出荷となり、天候に恵まれ、特段の病害の発生もないことから、生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産及び徳島産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
	109.97	82	83	109.97	91	・入荷量：2,234t ・主産地：鹿児島(69)、長崎(21)、徳島(14)			

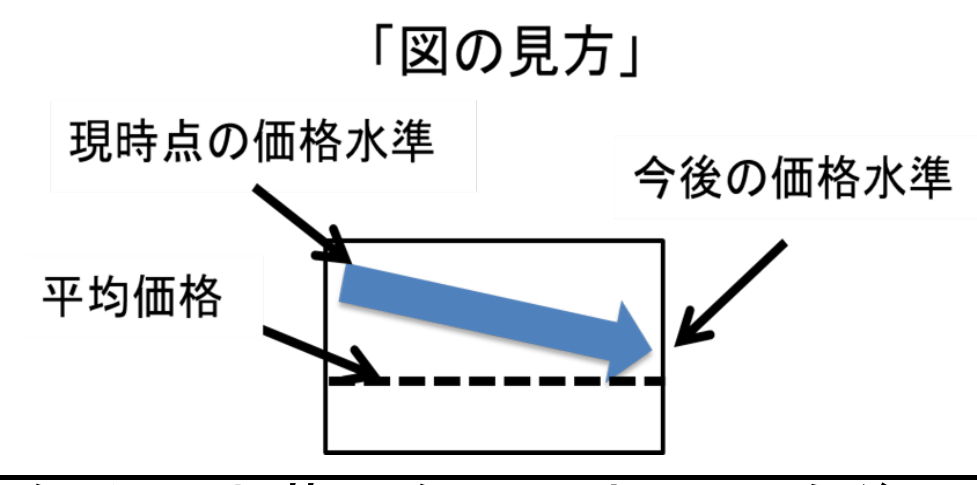


種類	2月の価格情報				3月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	上旬			
		中旬	下旬					
いも類	さといも	228.85	250 (109%)	273 (119%)	228.85	241 (105%)	・入荷量：650t ・主産地：埼玉(37)、千葉(34)	→
		219.65	364 (166%)	426 (194%)	219.65	314 (143%)	・入荷量：131t ・主産地：愛媛(52)、宮崎(16)、熊本(15)、輸入(9)	
	ばれいしょ	96.99	164 (169%)	174 (179%)	96.99	180 (186%)	・入荷量：8,712t ・主産地：北海道(74)、鹿児島(25)	→
		96.99	149 (154%)	158 (163%)	96.99	171 (176%)	・入荷量：2,445t ・主産地：北海道(62)、鹿児島(37)	



注：1 平均価格は、過去6年間(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。  
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年見込、近畿は前年実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

種類	2月の価格情報				3月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格		(参考) 過去5カ年平均価格	上旬			
		中旬	下旬					
洋菜類	ブロッコリー	332.22	461 (139%)	459 (138%)	275.26	517 (188%)	・入荷量：2,749t ・主産地：愛知(44)、香川(22)、埼玉(7)、輸入(8)、長崎(6)	→
		350.96	505 (144%)	495 (141%)	302.05	499 (165%)	・入荷量：689t ・主産地：徳島(25)、香川(18)、長崎(13)、群馬(11)、鳥取(10)、熊本(6)	
根菜類	かぶ	139.51	151 (108%)	153 (110%)	132.64	159 (120%)	・入荷量：1,545t ・主産地：千葉(88)、埼玉(9)	→
		137.86	167 (121%)	182 (132%)	148.04	191 (129%)	・入荷量：116t ・主産地：徳島(59)、石川(22)、福岡(17)	



注：1 平均価格は、過去5カ年平均(平成23～27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景ありは平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで前年実績である。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

## 2 トピック — ピーマンの需給動向等について —

今回は、これから6月にかけて卸売市場における入荷量が増加し、また、子どもが嫌いな野菜ランキングでは、いつの時代でもベスト3に入る「ピーマン」の需給動向等について紹介する。

ピーマンは、とうがらしを品種改良したもので、ナス科トウガラシ属に分類され、辛いとうがらしの一種である。最近では、成熟した赤ピーマンをはじめ、赤、黄、オレンジなどのジャンボピーマンやパプリカなどが店頭に並ぶようになっている。また、ピーマンが嫌いな子ども(大人も)でも食べられるように、甘みがあって独特な青臭さや苦みが少ないものも市場に出ており、色、形、味、栄養、調理方法の異なるさまざまなピーマンを楽しむことができる。

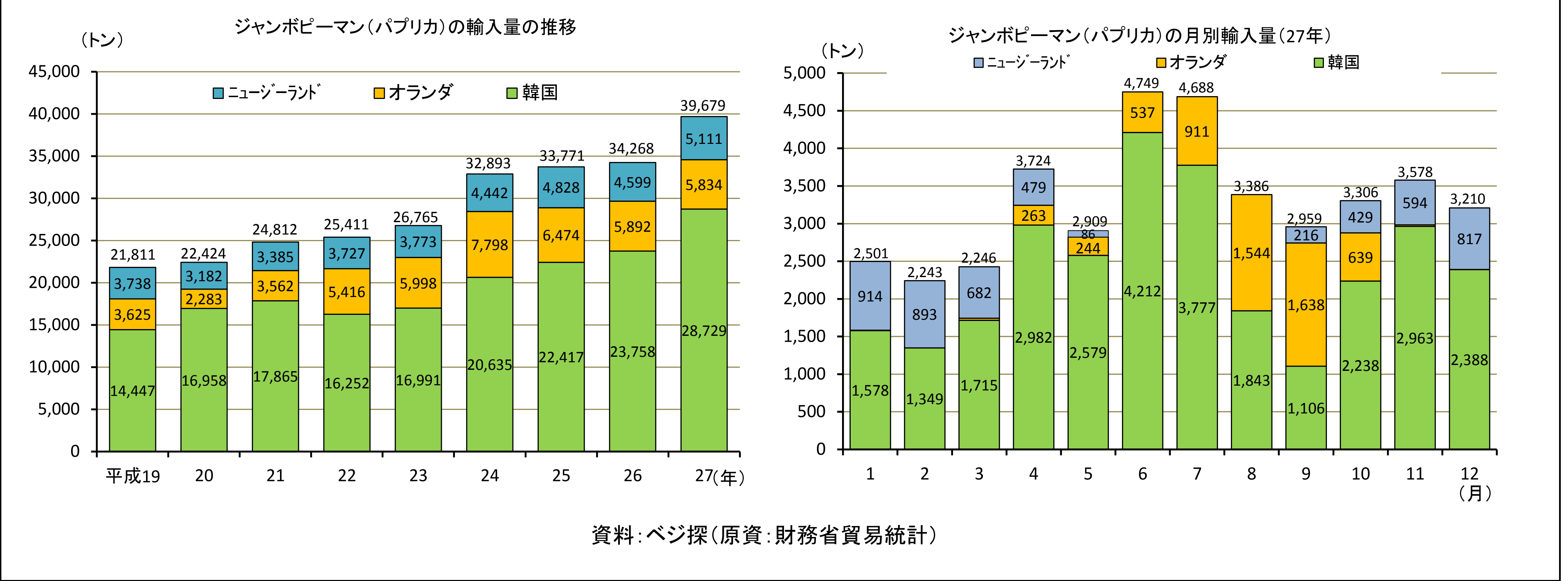
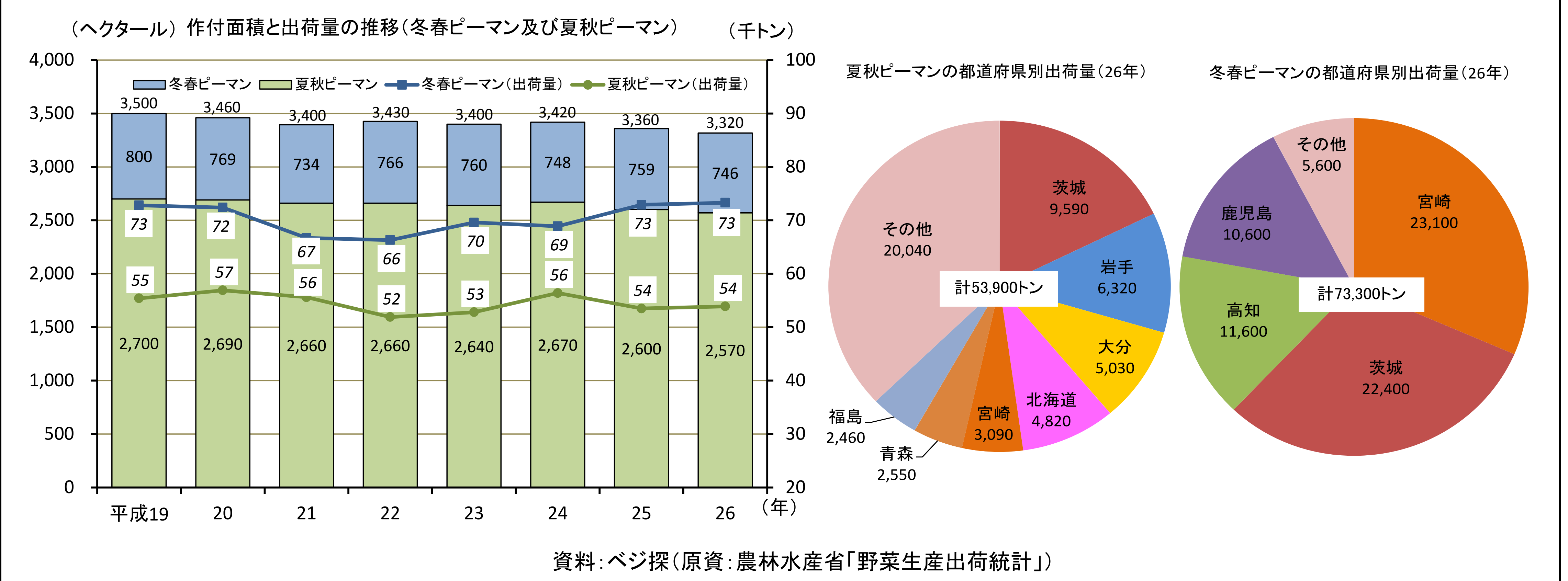
ピーマンの独特な青臭さや苦みが苦手な人は、加熱以外に、さっと湯通しするとサラダでも食べやすくなる。なお、しとうがらしは、栽培環境などによって、とうがらしのように辛味の強いものもあり、見た目では分からないので注意が必要である。

平成26年のピーマンの作付面積は3320ヘクタール、出荷量は12万7200トンとなっており、茨城県(3万2000トン)が最も多く、次いで宮崎県(2万6200トン)、高知県(1万3100トン)となっている。ピーマンは、この3県で全国の6割近くを占めており、西南暖地から関東、東北及び北海道とリレー出荷による周年供給が行われている。茨城県産は主に首都圏、宮崎県産及び高知県産は近畿圏を中心として、冬から春の首都圏にも出荷されている。

26年の作付面積と出荷量は19年と比較すると、作付面積は95%と減少傾向で推移しているが、出荷量は23年以降単収の向上などにより増加傾向で推移している。

ピーマンは、出荷期間により、冬春ピーマン(10月～翌6月)と夏秋ピーマン(5月～10月)に分類され、26年の作付面積の割合は冬春ピーマン23%、夏秋ピーマン77%となっている。しかし、単収は冬春ピーマン10.2トン/10a、夏秋ピーマン2.61トン/10aと冬春ピーマンが大きく上回っていることから、出荷量の割合は冬春ピーマン58%、夏秋ピーマン42%と作付面積と逆転している。これは、冬春ピーマンが西南暖地や茨城県の限られた産地でハウス栽培されているからと思われる。

ピーマンの1世帯当たりの購入量の推移を見ると、19年以降は漸増傾向で推移しており、23年以降、2600グラム台で推移している。一方、輸入量は、韓国産パプリカを中心に24年以降増加傾向で推移しており、19年2万1811トンから27年3万9679トンへ81.9%の増加を示している。これらの要因としては、加工・業務用、外食向けを含めたサラダ需要の増加などによるものと思われる。国別輸入量は、韓国が全体の72.4%を占めるが、8月、9月はオランダからの輸入が多くなっている。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\_report.html に掲載しています。  
※無断転載せず ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。